

「土木工事現場必携」ご購入者様

「土木工事現場必携（令和2年3月）」の一部修正（追加）について

「土木工事現場必携（令和2年3月）」について、令和2年4月20日に当センターホームページにて内容修正のお知らせしたところですが、下記内容についても、誤りがありましたので、お知らせします。

なお、ご購入様には、大変ご迷惑をおかけしておりますが、「張付け型の修正用シール」を準備中ですので、前回修正分と合わせて、出来上がり次第、送付いたしますので、よろしくお願いいたします。

#### 記

○修正箇所（別紙正誤表のとおり）

- ・ P 3 - 6 3
- ・ 参考図-2 RM-2 ブロック積(石積)擁壁(練積)（河川護岸用）の「材料表」、「基礎寸法表及び材料表」の表
- ・ 表内の数値の修正

お問い合わせ先

<企画研修課>

電話番号 0964-28-6926

FAX 0964-28-7260

Eメール: kensyu@kuma-ctc.or.jp

正

誤

RM-2 ブロック積(石積)擁壁(練積) (河川護岸用) 参考図-2

寸法表

H (直高) (m)	L(のり長)			控長		裏込め材厚さ												
	N1(前面勾配)					U <sub>1</sub> (裏込め土が良好な場合)			U <sub>2</sub> (裏込め土が普通な場合)									
	1:0.3	1:0.4	1:0.5	a	c	d			d			d						
1.00	1044	1077	1118	350	200	339	335	330	300	439	435	430						
1.50	1566	1616	1677	350	200	387	381	374	300	487	481	474						
2.00	—	2154	2236	350	200	—	427	419	300	—	527	519						
2.50	—	2693	2785	350	200	—	474	464	300	—	574	564						
3.00	—	3231	3354	350	200	—	520	509	300	—	620	609						
3.50	—	—	3913	350	200	—	—	553	300	—	—	653						
4.00	—	—	4472	350	200	—	—	598	300	—	—	698						
4.50	—	—	5031	350	200	—	—	643	300	—	—	743						
5.00	—	—	5590	350	200	—	—	687	300	—	—	787						

材料表 (1m当たり)

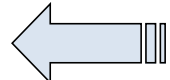
H (直高) (m)	裏込め材 (m <sup>3</sup> )			裏込め材料計算一般式 (m <sup>3</sup> )		
	U <sub>1</sub> (裏込め土が良好な場合)	U <sub>2</sub> (裏込め土が普通な場合)		$A = \frac{(H+H_1+1-0.1)}{2} \{ 0.1^2 + 2\sqrt{1+N^2} + 0.1(H+H_1+1) \}$		
1.00	0.387	0.395	0.406	0.527	0.541	0.557
1.50	0.576	0.588	0.603	0.769	0.787	0.810
2.00	—	0.806	0.825	—	1.059	1.088
2.50	—	1.049	1.072	—	1.355	1.391
3.00	—	1.316	1.344	—	1.677	1.718
3.50	—	—	1.641	—	—	2.071
4.00	—	—	1.962	—	—	2.449
4.50	—	—	2.309	—	—	2.851
5.00	—	—	2.681	—	—	3.279

基礎寸法表および材料表

a (控長)	寸法表				材料表 (1m当たり)		
	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>2</sup> )
350	430	100	250	100	0.083	0.350	

注意事項

- 本標準図は、河川護岸用としてのみ使用できるものである。
- 中間の設計条件に対しては、直近上位のものを使用すること。
- ブロックは、圧縮強度σ<sub>ck</sub>=18N/mm<sup>2</sup>以上とし、1m<sup>2</sup>当たりの使用質量は、350kg以上であること。
- 胴込めコンクリートおよび基礎コンクリートは、σ<sub>ck</sub>=18N/mm<sup>2</sup>以上とする。
- 裏込め材の寸法は、前面勾配に直角として表示してある。
- 寸法表中の裏込め材厚さ(d)および材料表中の裏込め材の数量は、基礎材厚(t)を20cmと仮定してある。したがって基礎材厚がこれと異なる場合は、別途計算すること。
- 比較的よく積まれた地山の切土部に使用する場合は、裏込め材を上下等厚とし、材厚30cm～40cmとしてよい。
- 基礎材は、基礎地盤の状況に応じて別途検討し、材種、数厚および数量を該当する箇所に明記すること。
- 伸縮目地の間隔は、10m以下とする。
- 寸法表、材料表、基礎寸法表および材料表の該当する部分を赤線で囲むなど、使用箇所を明記するのがよい。



RM-2 ブロック積(石積)擁壁(練積) (河川護岸用) 参考図-2

寸法表

H (直高) (m)	L(のり長)			控長		裏込め材厚さ												
	N1(前面勾配)					U <sub>1</sub> (裏込め土が良好な場合)			U <sub>2</sub> (裏込め土が普通な場合)									
	1:0.3	1:0.4	1:0.5	a	c	d			d			d						
1.00	1044	1077	1118	350	200	339	335	330	300	439	435	430						
1.50	1566	1616	1677	350	200	387	381	374	300	487	481	474						
2.00	—	2154	2236	350	200	—	427	419	300	—	527	519						
2.50	—	2693	2785	350	200	—	474	464	300	—	574	564						
3.00	—	3231	3354	350	200	—	520	509	300	—	620	609						
3.50	—	—	3913	350	200	—	—	553	300	—	—	653						
4.00	—	—	4472	350	200	—	—	598	300	—	—	698						
4.50	—	—	5031	350	200	—	—	643	300	—	—	743						
5.00	—	—	5590	350	200	—	—	687	300	—	—	787						

材料表 (1m当たり)

H (直高) (m)	裏込め材 (m <sup>3</sup> )			裏込め材料計算一般式 (m <sup>3</sup> )		
	U <sub>1</sub> (裏込め土が良好な場合)	U <sub>2</sub> (裏込め土が普通な場合)		$A = \frac{(H+H_1+1-0.1)}{2} \{ 0.1^2 + 2\sqrt{1+N^2} + 0.1(H+H_1+1) \}$		
1.00	0.149	0.153	0.159	0.212	0.218	0.225
1.50	0.301	0.308	0.317	0.418	0.427	0.440
2.00	—	0.489	0.502	—	0.661	0.681
2.50	—	0.684	0.711	—	0.920	0.945
3.00	—	0.924	0.945	—	1.204	1.238
3.50	—	—	1.205	—	—	1.551
4.00	—	—	1.489	—	—	1.891
4.50	—	—	1.798	—	—	2.257
5.00	—	—	2.133	—	—	2.647

基礎寸法表および材料表

a (控長)	寸法表				材料表 (1m当たり)		
	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	基礎材 (m <sup>2</sup> )
350	520	100	300	100	0.114	0.400	
	550	100	350	100	0.136	0.450	

注意事項

- 本標準図は、河川護岸用としてのみ使用できるものである。
- 中間の設計条件に対しては、直近上位のものを使用すること。
- ブロックは、圧縮強度σ<sub>ck</sub>=18N/mm<sup>2</sup>以上とし、1m<sup>2</sup>当たりの使用質量は、350kg以上であること。
- 胴込めコンクリートおよび基礎コンクリートは、σ<sub>ck</sub>=18N/mm<sup>2</sup>以上とする。
- 裏込め材の寸法は、前面勾配に直角として表示してある。
- 寸法表中の裏込め材厚さ(d)および材料表中の裏込め材の数量は、基礎材厚(t)を20cmと仮定してある。したがって基礎材厚がこれと異なる場合は、別途計算すること。
- 比較的よく積まれた地山の切土部に使用する場合は、裏込め材を上下等厚とし、材厚30cm～40cmとしてよい。
- 基礎材は、基礎地盤の状況に応じて別途検討し、材種、数厚および数量を該当する箇所に明記すること。
- 伸縮目地の間隔は、10m以下とする。
- 寸法表、材料表、基礎寸法表および材料表の該当する部分を赤線で囲むなど、使用箇所を明記するのがよい。